



第 51 号

発行日：令和8年10月15日
 発行：一中地区市民委員会
 編集：文化広報部会
 事務局：一中地区公民館内
 TEL：029-821-0104
 世帯数：10,696戸
 人口：20,138人
 (令和8年9月現在)

こども の 広 場

あこがれの合唱団

蓮河原新町 二小4年 松島 一真

ぼくは、4年生になってから、あこがれていた合唱団に入りました。これまでは姉の応えんだっただけで、今度はぼくが歌う番になりました。今年の夏は、初めてのコンクールに挑戦しました！

ぼくたちの目標は、仲間と心を合わせて、きれいなハーモニーを作ることです。でも、みんなと合唱することはとてもむずかしいです。おなかで息をする腹式呼吸や、きれいなうら声を出す練習をがんばっています。ライバルの学校もみんな上手で強いです。

それに、ぼくたちの学校の練習場所、あまりよくないそうです。よく使う多目的室は音があまりひびかないし、体育館は音がよくひびくけど、夏はすごく暑くてあまり使えません。

だから、先生方は、ぼくたちがいい練習ができるようにいろいろ考えてくれています。他の学校をかりたり、ホールを予約してくれたり、

一生けん命さがしてくれます。

保こ者の方たちも、練習場所に送りむかえてくれて、ぼくたちが熱中症にならないように、練習の見守りとサポートをしてくれます。

ぼくたちには大切にしている言葉があります。それは、「一心入音」という言葉です。

二小合唱団は、歌に「ありがとう」の気持ちをこめて、言葉をとどけます。姉が合唱団にいたときには、二小合唱団の歌を楽しみに待つてくれている人がいる、だから、ただ大きな声を出さだけじゃなくて、聞いている人に心をこめて伝えることが大切なんだと、みんなで話し合っていたと教えてくれました。



ぼくはまだ歌うだけで大変で、先ぱいたちのようにはうまく歌えません。でも、もっと練習して歌えるようになったら、たくさんの人にぼく

たちの歌と「ありがとう」をとどけたいです。

はじめてのコンクールはきんちょうしたけど、大切な仲間と先生といっしょに、最高のハーモニーをとどけました！

みんなの 広 場

関わりの中で

文京町 匿名寄稿

世の中でデジタル化が進む中、色々人と人とのつながりを考えさせられる事が多くなつた昨今、ふと今から15年前におきた東日本大震災の事を思い出しました。当時、我が家も相当な被害を受けました。外を見ると塀は崩れ道路にその石が散乱、屋根瓦が吹き飛ぶ様子が見えました。家の中も色々な物が壊れましたが、家族が怪我を免れた事が一番幸いした事です。電気、ガス、水道も全て止まり、これからどうしようかと思っていた矢先、夜明け前に近所の床屋さんが、「大丈夫ですか」と声をかけにきてくれました。不安の中の一夜でしたので、とても嬉しく涙が出ました。道路に散乱している塀の破片も町内の男性3人が片づ

けてくださり、また、門扉が崩れないようにと太い縄でしばりつけてくれました。

その時程、人の温かさ、親切な心持に感動し、大変な災害ではありましたが、人と人との関わりの大切さを痛感する出来事はありませんでした。

生活する中で大切な物は沢山あると思いますが、私が今一番大切にしたい事は、人への感謝の気持ちを忘れず、色々な方と関われる一瞬一瞬に喜びを感じられるようにしていく事です。これからも、デジタル化に流される事なく、上手につきあひながら、現代の世の中で人間がもつパワーや人々との関わりが希薄にならないようにと願うばかりです。

小山権現塚

桜町四丁目 石川 功

昨年亡くなった父の昔の運転免許証には、現住所の欄に「土浦市小山」と書かれていたのを覚えている。子供のころ、父にこの場所はどこかと尋ねたところ、このあたり（大町・桜町四丁目）の古い地名だろうと答えてくれた。『土浦歴史地図』（昭和49年刊）にまとめられた土浦市小字図を見ると、大町の南東側に「小山」

の小字（こあざ）が記されている。



引用：教育委員会「土浦歴史地図」

さて、江戸時代土浦藩の農政学者であった長島尉信が記した文書をまとめた『長島尉信土浦町関係著作集』（平成16年刊）の中には、「小山権現塚」というものがあり、大町はこの土を取って築いたといわれていると記されている。どうやら江戸時代には、このあたりに築き立てに利用できるような土地の高まりがあったようだ。桜川下流部の低地にこのような高まりがあること自体が珍しいことであるが、この文末には「按にこのつかむかしの郡司の棺をまつるものなるかするへからず」と記されている。この高まりは古墳だったのであろうか。現在では知る由もない。

伝統をつなぎ、人と人をつなぐお祭り

―地域と歩む八坂神社祭礼―

中央二丁目神輿・屋台巡行



中央二丁目青年会長

萩谷 光泰

今年度、中央二丁目青年会長、そして八坂神社祭礼における町内神輿・屋台巡行の実行委員長を務めさせていただきました。近隣住民の皆様をはじめ、一中地区の地域の皆様からの温かいご理解と多大なご協力により、無事に神輿渡御を収めることができましたことを、心より御礼申し上げます。

私自身、土浦に暮らし始めて15年以上が経ちます。しかし、子どもたちがまだ幼かった頃はマンション暮らしで、町内会にも所属していませんでした。そのため、地域のお祭りは「遠くで見かける季節の行事」であり、直接参加するきっかけもなければ、その見どころや背景にある歴史を深く知る機会もありませんでした。同じ街に暮らしながらも、どこか地域との距離を感じていた当時の感覚は、今でもよく覚えています。

しかし、縁あって中央二丁目が暮らしの中心となり、実行委員会としてお祭りの運営に関わるようになって

て知ったのは、このお祭りが江戸時代から絶えることなく受け継がれてきた、極めて歴史深い地域の宝であるということです。そして何より感動したのは、お祭りが単なる伝統行事にとどまらず、子どもから若者、お年寄りまで、年齢や立場、居住形態などの垣根を越えて集い、互いの顔が見える信頼関係を育む「地域コミュニティのプラットフォーム」になっていることでした。掛け声を掛け合い、ともに神輿を担いで汗を流す中で生まれる「つながり」は、日常の暮らしの中では得がたい大きな財産だと実感しています。





また、巡行に華やかさと情緒を添えてくれたのが、東京都指定無形文化財である菊岡家社中の皆様による葛西離子（かさいばやし）です。中央一丁目では、旧中城町の時代から東京の葛西離子を呼んで巡行することが習わしで、古くから商都として栄えた土浦と江戸・東京の伝統文化との「つながり」の歴史を感じる事ができます。江戸情緒を今に伝える粋で重厚な音色が街中に響き渡り、担ぎ手だけでなく沿道で見守る方々の心をも一つに結びつけてくれました。

かつての私のように、「マンション暮らしだから」「町内会に入っていないから」と、地域のお祭りや歴史に触れる機会がないまま過ごされている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、お祭りの扉はいつでも皆様に開かれています。歴史を知り、伝統の音色に耳を澄ませ、少しでも関わりを持つことで、見慣れた街の風景はより温かく、味わい深いものへと変わります。

伝統を守り、次の世代へと紡いでいくのは、今この地域に住む私たち一人ひとりです。今回の巡行をきっかけに生まれたつながりを大切にしながら、誰もが気兼ねなく参加し、笑顔で集える地域づくりを目指してまいります。来年もぜひ、皆様とともに熱気と感動を分かち合えることを楽しみにしています。

歩いて楽しい街「土浦」

文京町 小林 まゆみ

コロナをきっかけに本格的に絵を描き始めました。基礎も知識も無かったのでつくばの子供向けアート教室に通いました。約五年間で描きためたものをこの度、ギャラリー「ZUTTO」にて個展を開催させていただきます。

土浦に移住してきた三十有余年前、歴史深い土浦の風情ある古い街並みに心ひかれたことをよく覚えています。中心市街地活性化事業に二十年携わってきたこともあり、まちなかに残る年代物の建物に強く心を惹かれました。その一つが中央一丁目にある保立食堂です。



ちょうどその頃、仕事で保立食堂の故保立俊一氏にインタビューさせて頂く機会がありました。氏は明治後期から昭和初期の土浦のまちの様子をスケッチされていて、インタビューでは土浦の昔の様子を細かく伺うことができました。今思えば、保立氏のスケッチに触発されて現在の町の様子を絵に残したいと思ったのかもしれない。

私の曾祖父が明治生まれの宮大工。また、二歳違いの兄が建築士ということもあり、幼いころから兄も私も建造物に興味がありました。

木造日本建築、看板建築、石造りのファサードや格子、瓦屋根などを描きながらゾクゾクします。描き終えると、あたかも自分が一棟丸ごと建てた気になる高揚感があります。

土浦は歩いて楽しいまち。城下町特有の入り組んだ道ひとつひとつに歴史を感じます。車で走っては決して気が付かない魅力がここそこに落ちています。県や国の重要文化財に指定されている建物よりも、控えめな場所、例えば路地裏にひっそり佇む傾きかけた建造物に魅力を感じます。どんな人が住んでいたのか、あの窓から見える昭和の町のような人の営みを想像しながら描いています。東日本大震災で多くの建物が倒壊してしまいました。今、現存するものをどうか今後も残してほしいと願いますが、なかなか難しいのでしようね。

今回、個展を開催させていただき、市民の皆様をはじめたくさんの方にご来場いただきました。そのほどんどの方々が、会場で作品を観ながら思い出話をされていました。また、

知らない人同士で「この建物はどこかしら?」「ここは、ほら、あそこの路地の突き当たりよ」といった感じで会話がはずみコミュニティが生まれていました。皆さんの土浦に対する思い、土浦愛をたくさん感じることができ、そのきっかけ作りができたことが何よりも嬉しかったです。



町内会の自主防災会の 担当になって



中央二丁目
小野村 一博

今年初めに地区長さんから町内会の役員への就任依頼と共に「市から自主防災会の編成を打診されている

んだ」とのお話を聞き、担当者になることをお受け致しました。

とはいえ、防災に関する知識は全く無く、情報収集をしたり防災士の資格を持つ副地区長さんの助言を頂きながら、自主防災会の規約・防災計画・行動計画を作成しました。

防災に対しては、「自助・共助・公助」と言われ、自主防災会は、自助と共助を担うことになります。

しかしながら高齢者が多く、対策のための予算も微々たる中で防災の教科書に書かれているお手本通りの防災計画を策定し実行することは困難ですし、作っても「絵に描いた餅」にしかならないでしょうから、お金が掛らず実効性の高い対策を中心に行動計画として織り込んでみました。

具体的には、マイタイムラインの策定により各家庭の行動を再確認すること、大雨前の排水溝の清掃、災害発生時の安全確認の方法の周知等になります。自主防災計画の対象は、主に地震と大雨による浸水が対象になります。浸水は、台風の接近など気象予報によつて数日前から何らかの備えをすることもできますが、地震は突如襲ってきますし、その備えも、住宅の耐震化などお金のかかる

対策になりますから、町内の自主防災会でどうこうすることも難しいのですが、小さなお金で減災に有効と言われる棚類の転倒防止策や感震ブレイカーの設置による火災防止等の情報提供や設置に対しての相談にのつてあげることかと考えています。

それらを27ある班長さんにご説明をしようとしていた7月末に熊本県で震度7の大地震が発生し、この原稿を書いている今、被害や避難所生活の様子などを目にして、改めて考え直さなければと思っています。

左のグラフは、防災白書に載っている防災関係費用の推移です。



地域住民の「自助・共助」での防災への備えは重要ですが、国には震災の度に「喉元過ぎれば熱さを忘れる」を繰り返すのではなく、しっかりと防災予算を付け「公助」の責任を果たしてもらいたいと思います。

同好会だより

土浦マジック同好会 活動内容について
土浦マジック同好会 出田 立郎

マジックを一緒にやってみませんか? これまで、一度くらいは手品を見たことはありませんか? なにか、ヒトとはちがう、特別な隠し芸を身に付けたいと思いませんか? 何より、ちょっとしたフシギな出来事を、あなたの手の中で起こしたいと思いませんか? 土浦マジック同好会は、そんなあなたの願いをかなえるお手伝いをいたします。

「マジック」あるいは「手品」「奇術」は見ているだけで、ワフワドキドキしてきます。「マジック」は、「魔法」でも「超能力」でもありません。特別な才能も特殊な技術もありません。ほんのちよつと練習すれば、「マジック」は誰にでもできます。必要なのは「人を楽しませてあげたい」という心です。

土浦マジック同好会は、土浦市内に在住し、マジック、奇術、手品が好きなメンバーで結成された集まりです。基本的な活動は、毎月一回、第三土曜日の午後、一中地区公民



☎ 029-821-1065

(連絡先) 笹川 一夫

たならば幸いです。

どうぞお気軽に、ご参加いただ

す。

また環境科学センターで、毎月一

回、ボランティアとして、会員がマ

ジックを披露させていただいていま

すは、一部では大変有名です。

望があれば積極的に参加させていただ

いております。会員の技術の確か

さ、一部では大変有名です。

お祭りや忘年会、新年会、敬老会、

ある同好会です。

の歴史は40年以上にもわたる由緒

ある同好会です。

現在の会員数は5名。平均年齢は

80歳といささか高めですが、会とし

ての新しい手工品を覚えています。

の指導のもとで、毎回2つないし3

つの新し

館に集合して、手工品の道具を見せ

合ったり、自分たちの手工品の工夫を

紹介しあ

専門部の活動

市民委員会環境部活動

一中地区市民委員会

環境部長 中川 恵子

まちづくり活動を推進するため各

中学校地区に組織された市民委員会

は、六つの専門部会が設置され活動

しています。その中の環境部は「ごみ

の減量化、資源化運動、環境美化、

水質浄化運動、花いっぱい運動など

を担当します。四月の環境部会では、

今年度の事業計画の確認の後に各町

内の活動や困っていることなどの情

報交換を行いました。それぞれ自分

達の街をきれいにしようと努力され

ているのがよくわかりました。

花いっぱい運動は学校や企業、ま

た街の花壇を整備しているボラン

ティア団体や土浦市が無料で配るサ

ルビアやマリゴールドなどの苗を

育て、街を花でいっぱいにする事業

です。一中地区でも多くの団体さん

が参加してくださり、街を華やかに

してくれています。雑草抜きや毎日

の水やりは大変な作業です。一中地

区公民館でも玄関前でサルビアやマ

リゴールドなどのプランターが皆

揃っています。

様をお迎えしています。グリーン



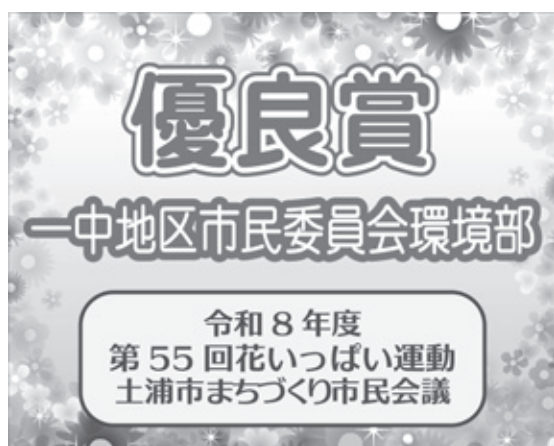
カーテンの琉球朝顔も大きく成長し
てくれました。環境部員の有志で、
今年は公民館の職員さんと一緒に土
作りから花いっぱい運動を行ってい
ます。公民館の休館日は当番を決め
て環境部員が水やりを行いました。

ベコニアやオリヅラン、千本菊な
どは株分けをして公民館を利用する
方にお持ち帰りしていただしていま
す。みんなで大事にすると花もそれ
なりに答えてくれるように思い
ました。その他、環境部の活動は公
民館祭りや土浦花火大会後の桜川河
川敷の清掃活動などもあります。

公民館まつりでは、ペットボトル

や空き缶の回収を通して「ごみの分別
や資源化を呼びかけます。子供たち
にも人気のイベントですが、昨年から
は「排油」の回収も始めました。
土浦花火大会後の河川敷のゴミは
減少傾向ですが、駅から会場までの
道端には分別されていないごみが沢
山捨てられており各町内は大変迷惑
を受けています。清掃活動方法を検
討し「街中ゴミゼロ」になるように
していきたいと思っています。

一中地区は長い歴史のある土浦市
の中心部です。この素敵な街並みを
大切に思い、私達の小さな行動で、
ごみの減量化、資源化、環境美化が
行われ花いっぱいのまちづくりを継
続し住みよいまちづくりに繋がれば
よいと思います。



職員紹介

ときめきの世界



一中地区公民館指導員
寺内 明

先生、この前もらった苗ね、

花が咲いたよ！

四月、駐車場のコンクリートの隙間から生えていた草花。こんなところから生えるとは、まさしく「根性の花」である。その茎を折らないように丁寧に抜き、ポットへ移す。そして、挿し木などを行っていたら、苗の数が一気に増えた。購入した苗は一つもない。公民館で育った苗が育ち、今、その花たちが公民館を華やかに彩ってくれている。

しかし、課題もあった。増え続ける苗をどうしよう。考えた末、地域の方々に配布することにした。その数は、八月で五百を超えた。公民館の玄関に置いておくと、一つ残らず持って行ってくれる。そして、冒頭の言葉。公民館から多くの苗が巣立っていき、それぞれの場で花を咲かせる。そのことが、地域の方々のつながりを日々感じさせてくれる。

また、今年度から新たな取り組み

として、子どもたちはもちろん、親子で楽しめるイベントを計画・実践している。それが、「ときめき☆チャレンジ」である。今年度は、カヌーやヨット、グラウンドゴルフ、サッカー等を計画している。親子で助け合ったり、励まし合ったりしながら活動する。そして、活動後に、笑顔で語り合う親子の姿。その姿は、私たちの明日へのエネルギーとなる。

今年度から指導員という立場で公民館に関わらせていただいているが、すべてが新鮮で、今日は何が起るかと、毎日わくわくしている。プランターや花壇の花を見て声をかけてくださる方々、一緒に花づくりをしたり、休館日に水やりをしたりしてくださる環境部の方々、「ときめき☆チャレンジ」を支えてくださる青少年育成部や地域団体の方々、ここでは書ききれないほど多くの方々に支えられて公民館が成り立っていることを実感している。

皆さんに「ときめいて」いただくこと、日々努力しているつもりであったが、実は、私自身が皆さんから「ときめき」をいただいている。公民館つておもしろい。やりがいをかみしめながら、地域に貢献できるようにになりたいと思う。



一中地区公民館館長
中根 聡美

本年4月より一中地区公民館の館長として着任しました中根と申します。

皆さまには、公民館運営や地区市民委員会のさまざまな活動を通してご協力いただき、心から感謝申し上げます。

この原稿を書いている8月は、公民館の玄関周りが色とりどりのたくさんの花で彩られています。花いっぱい運動として一中地区市民委員会環境部の皆さまにご協力をいただいたきれいな花に囲まれていると、それだけで気持ちが明るくなり、毎日元気をもらっています。公民館を訪れる方々にも、ちょっとした癒しを届けてくれることと思います。

公民館は、講座や行事に参加する場所であると同時に、地域の皆さんが気軽に集い、顔を合わせ、おしゃべりをし、つながりを育む場所でもあります。また、社会福祉協議会中央支部として、お困りごとの相談窓口でもあります。これからも、皆さんに身近に感じていただける、明るく親しみやすい公民館を目指して職

員一同取り組んでまいります。

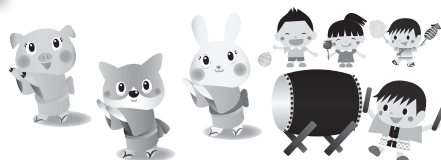
そのためには、職員だけではなく、地域の皆さまのお力が欠かせません。地域の皆さまと一緒に、一中地区らしい活動を進めていけたらと思っています。

まだまだ不慣れなこともあります。が、地域の皆さまに教えていただきながら、一緒に楽しく活動していきたいと思っています。引き続きのご支援とご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年11月29日(日)

午前9時から開催式

芸能大会・飲食物販売・
お楽しみコーナーなど



ふれあい
学びあい
第33回
一中地区
公民館
まつり

俳句

亀城俳句会

マウンドに上がる雄叫び炎天下

晩夏光道にせり出す古着市

顔を上げ明日へとつなぐ打揚げ花火

蝉しぐれ命の限り呼び起こす

遠花火恋人つなぎかたくなり

夏帽子母に手をふる遊園地

飯島 政和

野口 輝子

土井 直子

古澤 祥子

高橋 百合枝

鈴木 みち子

短歌

桜川あかねの帯を解き放ち煌く流れ行きて還らず

早産の曾孫 退院みつき後首すわりババにあやされ嬉々たる写メール

月光は今宵は休みと雲のいうボクの心に明かりがともる

齋藤 順子

櫻井 雅江

桑田 今日子

ほのぼのの川柳

矢作町 宮澤 律子

・台風の準備したけど、何も来ず

・雪だるまみたいになれよ 新二ーサ

新着図書のお知らせ

一中地区公民館の図書室に、以下の図書を入庫しました。来館の際はぜひご覧ください。

○大人気シリーズ！

パンどろぼうとさすらいラーメン
パンどろぼうとスイーツおうじ
パンどろぼうとほっかほっかー
パンどろぼうとりんごかめん

○人気キャラと科学が学べる

ポケモンサイエンスブック
ほのお
ポケモンサイエンスブック
くさ

○児童書・絵本

ある星の汽車
まるごとほうせきケーキ
すいかのたね

○人気作家の実写映画化

白鳥とコウモリ 上・下

○土浦城跡が登場する郷土史

日本史のなかの茨城県

○エッセイ・予防医療

80代になるとたいていボケるか死ぬ。70代は神様から与えられた特別な時間
認知症は予防が9割

編集後記

「亀城」は、51号という節目を迎えました。今号から従来の編集委員制を見直し、文化広報部会全体による編集作業に取り組みました。AI活用による作業の効率化など新たな工夫も取り入れながら、これからも地域に寄り添い、愛され続ける「亀城」を目指してまいります。

今号に寄稿いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

文化広報部 小泉 裕司

(本号の編集担当者)

石川 功／石川 幸子

小野村 一博／小泉 裕司

杉浦 宏幸／武笠 和子

矢口 由紀子／山本 敦子

地区内の活動団体を訪問

【土浦界限

まちづくり研究会】

昔の土浦の賑わいを懐かしく思う方も沢山いらっしゃると思います。最近、志ある起業家がモールなどでお店を始めたり、町興しのグループが集まりを持ったりし始めています。

今回、文化広報部では、土浦の町興しグループの老舗とも言える「土浦界限まちづくり研究会」取材させてもらいました。

「土浦界限まちづくり研究会」が活動の拠点としているのは、中央一丁目の中城通りにある「まちかど蔵野村」の脇の琴平通りから中城不動院にかけての界隈になります。



会では、地域コミュニケーションを大切にし、歴史ある土浦のまちの魅力を次世代につなげる活動をしています。おもな活動としては、空き

家、空き店舗の活用や「中城井戸端庵」、「コミュニティサロン聚」、寺子屋「亀楽」を活用した企画、そして「つちうら亀の市」の運営を主幹として行っています。

2021年7月に琴平神社の境内の一角にある古民家で始めた寺子屋「亀楽」では、常設で習字や琴の教室を行なっています。



7月中旬に創始者の伊藤春樹さんに「土浦界限まちづくり研究会」を始めた経緯をお聴きしました。

まちづくりコンサルタントであった伊藤さんは2000年頃、仕事絡みで久々に土浦を訪れ、ご自身の出身地である岩手県釜石市と同じ「水」で栄えた街が同じように寂しい状況にあるのを目にし共感しつつ、まちづくりのプロとして、土浦の魅力と立地に活性化の可能性を感じました。

その後、2009年に空店舗対策に関わり、行政からの動きだけでは解決の難しい課題であると考え、地元との協力を得て、市民の側からの動きとして、デザイナー・建築の専門家・商工会議所の担当者らと4人で2010年に「土浦界限まちづくり研究会」を始めたそうです。

そして伊藤さんは「まちは人。人と人をつなぐ」とおっしゃいます。

活動とともに賛同者が増え、現在会員は20名となっています。

2021年には、高梨美香子さんに代表が引き継がれ、日常の活動である習い事教室や茶話会などに加え、非日常の活動であるつちうら亀の市たなばた夕市、お月見会の開催など、現在の形になっています。



第10回つちうら亀の市(2025年5月18日)での集合写真

2025年2月からは、毎年春に行われる「亀の市」に加えて「亀楽市」が始まりました。「亀楽市」は、普段の賑わいづくりとして土日(25日(天満宮の縁日)、28日(不動院の縁日)の10〜15時に開催し、年内では10月25日(日)に開催予定です。ぜひお立ち寄り下さい。

「土浦界限まちづくり研究会」の日頃の活動は、フェイスブックやインスタグラムでお知らせしています。是非とも覗いてみて下さい。



Facebook



Instagram

お問い合わせは高梨美香子さんまで。
(090-11807-7681)

取材 文化広報部